

Ste La



青空に高く聳える北海道百年記念塔

交通：地下鉄東西線「新さっぽろ駅」からJR北海道バス開拓の村行き
「記念館入口」下車、徒歩5分

el andscape.

鉄の絶景

聳える鉄 ～北海道～

明治2年（1869年）、新政府は蝦夷地を北海道と改め、その防備と開拓を目的に開拓使を設置。以来わずか百年のあいだに、それまで人が住むに耐えなかった未開の荒野が、開かれた“暮らし”のある土地へと変貌を遂げた。これを記念し、北海道では昭和43年9月2日の記念式典を中心に種々の記念事業を行った。今回はその一環として昭和45年に建設された、北海道百年記念塔にスポットをあてる。

天高く、先人への慰霊と 北海道の限らない繁栄を願って

北海道は札幌市の中心から東に約11km、空に向かってまっすぐに、ひととき高く力強く聳える鉄の塔がある。北海道百年記念事業のひとつとして、北海道開拓の先人に対する慰霊と感謝の念を込め、北海道の限らない未来を築く道民の意欲のシンボルとして建てられた北海道百年記念塔だ。総工費5億円のうち半分の2億5千万円を道費の助成、また残りの2億5千万円を道民

からの募金で賄ったことから、道民の北海道に対する一方ならぬ思いがうかがえる。

塔の基本設計は全国から公募を行い、寄せられたアイデア299点の中から1点を選んで原案とした。開道百年にちなみ、塔の高さも100m。鉄骨トラス構造で、外装には耐候性高張力鋼板を裸使用している。このため塔の表面に発生したサビが保護膜となり、それ以上のサビの発生・進行を食い止める役割を果たす。当然、塗装の必要はない。褐色に覆われた塔身には、鉄そのもののたくましさはもちろんのこと、すでに30年近く



外壁に地元産のレンガを使用して建てられた北海道開拓記念館

もの年月のあいだ、北海道の歴史と自然とを見守ってきた力強さまでもが宿っているようだ。

真上から見た塔の形は六角形で、大地にどっしりと根を下ろした大樹とともに、北海道の象徴ともいえるべき雪の結晶を思わせる。空に向かって伸びる塔身は、無限大の高さで一点に交わるように設計された二次曲線で形成され、北海道の未来への発展性を、また耐候性高張力鋼板の塔表面に刻まれた荒々しいタッチは、塔の標語「風雪百年」にふさわしく、道民が厳しい風雪と闘ってきた鎧をあらわしている。

高さ23mにあたる8F部分には展望室が設けられ、緑豊かな札幌市野幌の森林を臨むことができる。また基壇部には池や広場、プロムナードが設置されるなど、憩いの場にふさわしい環境が整備されている。

北海道の自然を守り、歴史を語り継ぐために

北海道百年記念塔は北海道立自然公園野幌森林公園の正面に位置する記念施設地区に建っている。記念施設地区には百年記念塔以外にも北海道開拓記念館、北海道開拓の村などがあり、それぞれが北海道の歴史を伝える役割を果たす。そもそも開拓記念館は農漁村を問わず、時代の変遷とともに失われていくことの多くなった道民の父祖伝来の家屋・家財などを保存しようという目的のもとに造られた歴史博物館である。よって館内では先人の苦闘の跡を伝える開拓記念物の保存・展示を行うのはもちろん、古くは倭人の渡来に始まる北海道の生成や先住民族の文化、また新しくは北海道の今後の開発課題にまで触れている。昭和46年4月から一般公開。さらに平成4年には常設展示を一新した。外装には由緒ある地元産のレンガを使用しているのが特徴だ。

これに対し開拓の村は明治・大正期に建てられた北海道の建造物を54.2haの敷地に復元し、訪れる人々に開拓当時の生活を体験的に理解してもらうこと、また北海道文化の流れを示す建造物を後世に永く伝えることを目的として、昭和58年から一般公開された野外博物館である。旧札幌駅を復元した建造物をはじめ村全体が展示物として存在し、夏期は馬車鉄道、冬期は馬そりなどの動く展示物も運行している。

記念施設地区の前面に広大にひろがる野幌森林公園もまた、北海道百年記念事業のひとつとして、昭和43年5月に自然公園法に基づいて指定された道立自然公園だ。都市近郊に残された原始の面影を残す貴重な平地林を、永久に保護育成して人々の憩いの場とするために指定された公園である。札幌市、江別市、広島町の3市町にまたがり、総面積は2,051ha。千歳川、豊平川の支流が入り込み、地域の年間平均気温は約7℃で、温帯から亜寒帯への移行帯に当たる。このため温帯性広葉樹林や亜寒帯性針葉樹林などが入り交じって生息する多様な林相を見ることができ、園全体では100種を超える自生樹木が記録されている。また園内には400種以上もの野草が見られ、野鳥は約140種ほど観測されている。動物も中小の哺乳類をはじめ、爬虫類、両生類、魚類など種類は豊富だ。さらに昆虫ともなればその種類は1,300種にもおよぶ、一度園内を訪れば、実にさまざまな自然と触れ合うことができるのである。

野幌森林公園はもとより、百年記念塔を筆頭に、開拓記念館、開拓の村とが三位一体となって北海道の歴史を見つめ、守り、北海道を限りない未来へとつなぎ続けることだろう。

[資料・写真提供：北海道野幌森林公園事務所]